

Ⅱ. 2021 年度活動報告

1. 事業実施方針

2021 年度事業計画にもとづき、本人と保護者・家族支援を重点に置き活動に取り組んだ。昨年より続いている新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、研究会の開催は 1 回となった。昨年度開設した放課後等デイサービスは計画値まで伸びなかったが、一定の成果を得ることができた。また、コミュラボの人気は高く、振替を行うための調整をご家庭にお願いすることになった。茶話会はハイブリッド開催を行い定期開催に努めた。また、助成金の活用によってオンラインツールの体制強化を図り、支援体制の充実につながった。

2. 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

①相談ラボ

《目的》

・発達障害を持つ本人と保護者、その家族に対して相談支援を行い、問題の把握や解決に向けての方策を共に考え、必要に応じて、関係機関との連携を図る。

《実施状況》

- ・コロナ禍もあり SNS などのツールを活用した対応が多くなった。
- ・他機関からの紹介があり対応を行った。
- ・学齢期のお子さんは、学校や児童館での問題行動、学業不振、行き渋りや不登校の内容が多く、思春期のお子さんは、家庭での対応の難しさ、進路についての相談が目立った。成人の方は、就労について、障害年金、医療機関の選び方、余暇の過ごし方、対人関係や金銭のトラブルなど多岐に渡る内容だった。
- ・保護者や家庭、周囲の関わる人ができる手立てについてお伝えし、状況によっては、他機関につなげる、専門機関を調べてお伝えするなどの対応を行った。

《成果》

- ・会員や事業利用者に関しては、相談が入ることによって、すぐに職員間で状況を共有し本人等に対して対応を行うことができた。
- ・福祉サービスの種類・利用方法などの情報を提供し、保護者の制度理解を深めた。
- ・思春期以降の保護者に対しては、将来どのような暮らしをしたいのかなどの視点を持った助言を行った。
- ・相談事例の積み重ねにより、現状の困り感を把握し、ニーズを捉える機会となった。
- ・他機関連携を視野に入れ、セクターごとの特徴に応じた情報提供を行った。

②ステップラボ（保護者向け）

《目的》

- ・発達障害の子を持つ保護者が、その特性を知り、生活のしやすさにつながる具体的な手立てを学ぶ

- ・周囲の人や支援者に適切に伝えられる力を向上させる。
- ・困っていることを一緒に考え、解決策を講じることで保護者自身も前向きに生活ができるようになる。

《実施状況》

- ・ステップラボとコミュラボの併用者への個別セッションを行った。
- ・本人とのセッションの中で明らかになった課題について共有し、保護者と支援者が解決に向けて、本人に対して相互にアプローチを行った。
- ・学校を始めとする他機関との連携を図り、本人の状態像の把握や今後の支援についての共通認識ができた。

《成果》

- ・本人の特性からくる行動や考え方について保護者と確認し、課題となる行動の原因を分析することで、支援方針を揃えて支援に取り組むことができた。
- ・状態像に合った関わり方をすることで本人が自分のことを理解するきっかけとなり、不安が解消された。また周囲に伝える情報についても共有を図ることができた。
- ・課題の共通認識が早期に行えることができるようになったため、問題が複雑化する前に手立てを講じることができた。
- ・保護者からは、早期に対応策を立てられることに安心感があり、心の支えになったとの感想があった。

③茶話会（ラボティー）

《目的》

- ・保護者・家族同士のコミュニティの場づくり
- ・少し先を歩む保護者が共感的なサポートと地域資源についての情報提供等を行い、分かち合い・支え合うことで専門家とは違う効果をねらう。

《実施状況》

- ・実施9回 参加者 33名
- ・オンラインも活用しハイブリッドで開催した。
- ・平日参加が難しい方のために今年度初めて土曜日も開催した。

《成果》

- ・オンライン開催が浸透し、モニターを通してのやりとりもスムーズに行うことができたようになった。
- ・対面での集まりの希望も多く、新型コロナウイルスの感染状況によってはキャンセルになることがあった。
- ・保護者アンケートでは、参加の目的は情報収集という方が多く、実施後には、進路や制度などの詳しい情報が聞けて良かったなどの感想があった。
- ・土曜日の参加者からは、次年度にも土曜日開催を希望する声が多く寄せられた。

④ コミュラボ

《目的》

- ・安心して活動できる場で、将来に向けて必要な生活スキルを身につける。
- ・信頼できる大人との関わりを通して、自己理解を深め、困りごとを相談し、解決するプロセスを学ぶ。
- ・本人の気持ちや悩みを知り、保護者と共有し、対応する。
- ・保護者との情報共有を丁寧に行い、本人の発達や成長、それを支える家族に寄り添う支援を行う。
- ・将来的なコミュニケーションのあり方の一つとして、ICT 機器やオンラインの活用法を学ぶ。

《実施状況》

- ・小学生以上を対象に実施した。
- ・保護者面談や本人の様子、Vineland-II、その他アセスメントの状況を踏まえて個別支援計画を作成し、コミュニケーションや生活スキルに関するプログラムを実施した。
- ・個別、少人数グループのセッションを行った。
- ・ICT 機器や SNS の使い方についてのセッションを行った。
- ・新型コロナウイルス感染予防の対応策として、通常のセッションをオンライン用にプログラム化して実施した。
- ・プログラムの中に、気持ち、考え、困りごとなどの聞き取りの時間を入れ、視覚的に解説、確認しながら自己理解につなげるためのフィードバックを行った。
- ・家庭と連携し、生活スキル向上のためのプログラムを実施した。
- ・親子セッションでは、本人や保護者のその時のニーズに合わせた内容で、それぞれの考えを知る機会や、普段とは違った関わり場面を設定して実施した。
- ・振替については利用者が増加しているため日程の確保が難しくなっている。

《成果》

- ・複数メンバーで他者理解を進めるプログラムを実践し、他人と自分の意見が違っててもよいという経験を通して、自信に繋がった様子が見られた。
- ・本人から「ここで話をすることで安心できる」「他ではできない話や体験ができて嬉しい」「心配事を一緒に考えてもらえる」などの感想があった。
- ・SNS などの使用についての注意事項は保護者と共有し、安全な利用環境をつくるために連携することができた。
- ・家事や外出などの生活スキルについては、家庭と連携し、意識的に機会を設けることで徐々に定着する様子が見られた。
- ・親子セッションでは、新たに共通話題が増えた、お互いの考えていることがわかったなど、関係がよりスムーズになったとの感想があった。

⑤研究会

《目的》

- ・障害者福祉制度で運用されていない、18歳以上の余暇活動の場の提供を行う。
- ・安心できる環境で、信頼できる同じ趣味の参加者と主体的に活動を行うことで、家族や学校、職場以外の人間との関わりを構築する。

《実施状況》

- ・1回開催 6名参加
- ・コロナの感染が比較的落ち着いている時期に、感染防止対策をしながら開催した。
- ・参加したい要望が多く、対象年齢を中高生以上に広げ実施した。
- ・同じ趣味の人の集まりということで雑談をしながらリラックスして参加していた。

《成果》

- ・同じ興味の活動として、年齢に関わらず楽しんで過ごせる機会となった。
- ・年長者から、ゲームの情報提供などのピアサポート的な関わりがあり、中高生にとっては目上の人に対してのコミュニケーションを学ぶ場面になった。
- ・参加者からは、「楽しかった」「リラックスして過ごせた」「また参加したい」「誰かに何かを教える経験が新鮮だった」との感想があった。
- ・助成金で購入したwebカメラ、タブレット等を活用して運営体制を強化した。

⑥放課後等デイサービス ポータルラボ

《目的》

- ・発達障害のある子どもに対してコミュニケーションや社会性、日常動作などの発達支援を行い、将来に向けて生活能力を向上させる。
- ・他者との関わりや活動の中で、経験を増やし積み重ねることによって、信頼関係を築き、相談スキルの向上につなげる。
- ・自己選択の機会を設け、自己肯定感を育む。
- ・本人の興味に合わせた余暇支援を実施する。
- ・保護者の子育ての悩みに対する相談を行う。

《実施状況》

- ・興味のあるゲームなどは時間を決めて、職員同席のもと実施した。
- ・始まりの会や終わりの会など個別の聞き取りの時間を設け、気持ちや感想を伝える、質問に答える練習などを行った。
- ・スケジュール作成を行い、やりたい遊びの選択や予定時間の確認、希望する活動についての交渉の練習などを行った
- ・中高生からは悩みごと、他者への関わり方、自分の生活に関するアドバイスを求めるなどの相談が増えた。
- ・保護者に対しては対面の他、それぞれのニーズに合ったツールを活用して、お子さんの状況を共有した。
- ・保護者や相談支援事業所等に利用者を増やすための声かけや広報を行った。

- ・保護者会の開催（新型コロナウイルス感染防止対策のためハイブリッド開催）
- ・ガイドラインに示されている子どもの最大の利益を念頭に置き、職員間で個別支援計画に沿った支援が行われているかを確認しながら職員研修・指導を行った。

《成果》

- ・小学生から高校生までの子ども同士がゲームなどの同じ興味の活動を通して場の共有ができた。年長者がルールを守って活動する姿が年少者にもよい影響を与えた。
- ・自己選択の機会が増え、気持ちを積極的に伝えられるようになり、自信につながった。
- ・障害特性に配慮し、安心できる活動と関わりの結果、信頼関係を築くことができた。
- ・子ども自身が困りごとを相談できるようになったことで、気づきを得たり、見通しをつけたりする経験が増えてきた。
- ・思春期の、「親には言いづらい」といった相談を職員が聞き取り、対応を行った。本人の意思確認の元、保護者との情報共有を行い、双方の意見を確認する機会を設けた。
- ・保護者からも定期的に情報提供があり、子どもの状態変化をいち早く共有することができ、必要な対応を迅速に行うことができた。
- ・登録人数については目標値の達成は難しかったが、登録者数や利用数は徐々に増えた。
- ・エネルギー価格高騰による負担を軽減のため暖房用燃料等に要した費用について仙台市より補助金が交付された。（20,000円）

⑦イベント

●本人向けイベント

《目的》

- ・本人向けラボ事業の体験イベント
- ・事業の内容の説明や、保護者同士の出会い・交流の場の提供

《実施状況》

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施せず

●保護者・市民向けイベント

《目的》 成人期に向けた情報提供と必要に応じて学ぶ機会を創出する。

《実施状況》

- ・障害者雇用に取り組んでいる企業の方を講師に迎え、「事例から学ぶ障害者雇用の実際」セミナーを開催した。
- ・現場で働く当事者の方の様子や、企業の体制等について講演いただき、細かいところまで学ぶことができた。
- ・保護者の質問にも丁寧に答えていただいた。
- ・オンラインでの開催を実施した。

《成果》

- ・参加者 13名
- ・保護者のアンケート抜粋

「実際に障害者雇用をされていて、直接関わりを持ってくださっている方の、建前で

はなく現場の率直な声を聞いたのは貴重だった。」

「先の就労に向けて、不安はあるが、今から準備していくことがわかった。

「精神的に安定している時は可能でも少し乱れると難しくなるので、余暇の大切さや働く意欲につなげる気持ちも大事な事だと感じたセミナーだった。」

- ・保護者からの質問が多数寄せられ、関心の高さがうかがわれた。
- ・また、質問に対しては講師の方がひとつひとつ丁寧に答えくださり、保護者の満足度が高かった。
- ・初めての完全オンラインでの開催だったが、予定した時間内での運営が出来た。

Ⅲ. 組織運営

1. 会 員 正会員 名 賛助会員 名

2. 総会開催

- (1)通常総会 2021年5月21日(金)10時~11時
審議事項 2020年度事業報告および会計報告について
2021年度事業計画および予算について

3. 理事会

- 第21回 2021年5月8日(土)
(1)2020年度事業報告および会計報告について
(2)2021年度事業計画および予算について
- 第22回 2021年6月5日(土)(1)総会について
- 第23回 2021年8月7日(土)(1)活動報告
- 第24回 2021年10月2日(土)(1)活動報告
- 第25回 2021年12月4日(土)(1)活動報告
- 第26回 2022年2月5日(土)
(1)2022年度事業計画および予算について
(2)役員改選について
- 第27回 2022年4月2日(土)16時~17時
(1)2021年度事業報告および会計報告について

4. 情報収集、情報提供

《目的》

- ・成人期の就労や生活の実態について、情報収集し、会員に提供・共有する。
- ・企業や地域と情報交換を行い、連携する
- ・実態を把握し、今後の事業につなげる

《実施状況》

- ・ ホームページ、Facebook、LINE での情報発信
- ・ 会報誌リバティの発刊（年3回）
- ・ 他の事業所と障害福祉サービスに関連する情報交換と発信
- ・ 障害者雇用に取り組んでいる企業との情報交換等

《成果》

- ・ 発達障害関連情報を発信し、広く市民に対して情報を提供した。
- ・ LINE やメールを活用し交流を図った。
- ・ 会報誌を発刊し、情報公開に努めた。
- ・ 現状の福祉サービスについて情報を提供し、事例等の発信を行った。

5. ボランティア・寄付

- ・ ボランティア活動 名／ 時間（事業活動など）
- ・ 寄付金（会計報告参照）
事務所内に募金箱を設置

6. その他、他機関との連携等

- ・ 学校等のケア会議や支援会議への参加
- ・ 他支援機関からの相談、問い合わせ、連携

IV. 会計報告

別紙参照